

口蹄疫を乗り越えて

一 対象 中学生

二 主題名 生命の尊さ

三 ねらい

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

(3) (1)

四 発達の段階と資料の特質

中学生の時期は、生命の尊さについて日常的に考え、ありがたみを感じている生徒は少ない。また、近年は生活環境も変化し、身近な人の死に接したり、生命の有限さやかけがえのなさに心を動かされるといふ経験も少なくなってきた。このような時期に人間の生命だけでなく、身近な動植物をはじめとするすべての生命の尊さについて、深く考えさせることは大変重要である。

本資料は、自宅が畜産農家である中学生の恵子が、口蹄疫によって育てていたすべての牛を殺処分で失うというつらい経験から、かけがえのない生命の尊さに改めて気付き、すべての生命を尊重する気持ちを育んでいくという内容である。口蹄疫を乗り越えていく過程での主人公の心情を通して、生命の尊さについて深く考えさせることができる。

五 展開例

1 口蹄疫の被害について、知っていることを発表する。
2 資料「口蹄疫を乗り越えて」を読んで、話し合う。

(1) 口蹄疫のニュースを知ったとき、恵子はどんなことを考えたでしょう。

(2) 「かけがえのない牛たちを、もうこれ以上一頭だつて失いたくない。」という父の言葉を、恵子はどのような気持ちで聞いていたのでしょうか。

(3) 学校からの帰り道、空にかかった虹を見ながら、恵子はどんなことを考えたでしょう。

3 心のノート「生命を考える・いつか終わりがあふること」のペー
ジを読んで、生命について自分が考えたことを発表する。

4 命の大切さを実感した経験について教師の説話を聞く。

六 指導上の留意点

口蹄疫の被害によって、家族同然の牛たちをすべて失った恵子の気持ちを考えることを通して、身近な動植物の生命の尊さに気付かせたい。

七 参考資料等

自宅が口蹄疫の被害に遭った生徒へのインタビューを参考にし
て、ストーリーを構成した。

参考文献は「畜産市長の『口蹄疫』130日の闘い」(橋田和
実 編著)である。